

ズワイガニ

Chionoecetes opilio

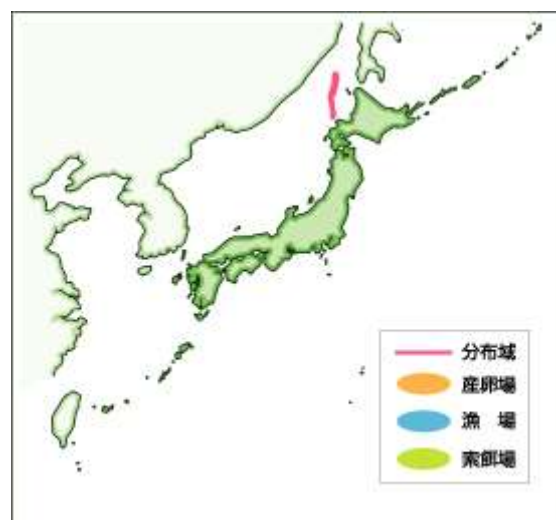
北海道西系群

担当：北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命：	不明（日本海西区では、13～15年と推定されている）
成熟開始年齢：	不明
産卵期・産卵場：	不明
索餌期・索餌場：	不明 漁場は水深400m前後の海域
食性：	成体の餌生物は、甲殻類や二枚貝、クモヒトデ類が主で、このほかに魚類、イカ類、ゴカイ類、巻き貝、ツノガイ類など
捕食者：	不明



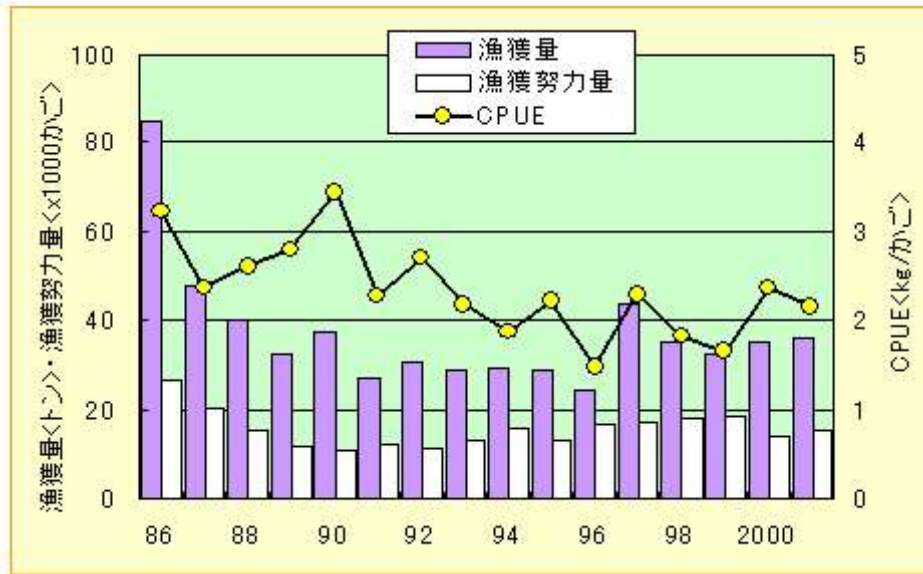
漁業の特徴

知事許可漁業であるベニズワイガニにかご漁業による混獲が、現在の主な漁獲であり、その漁獲量は2001年度で33トン、それ以外の漁業による漁獲量が3トンと少ない。本漁業のベニズワイガニの漁獲量は1,928トンで、それに対するズワイガニの漁獲量は約2%である。

ベニズワイガニにかご漁業は、1985年度から許容漁獲量制度が施行されている。また混獲とは言うが、ズワイガニの分布水深はベニズワイガニとは異なっており、取り分けが可能な状況である。

漁獲の動向

1986年度以降の北海道西海域におけるズワイガニの漁獲量は、1990年度頃まで減少した後、30トン前後で横這い傾向にある。2001年度の漁獲量は、ベにずわいがにかご漁業による混獲が33トン、それ以外の漁業による漁獲が3トンの合計36トンであった。漁獲量は漁期年（7月から翌年6月まで）で集計した。



資源評価法

全体の漁獲量とベにずわいがにかご漁業のCPUEから資源の状態を判断した。

資源状態

漁獲量は、1990年度以降は30トン前後で安定して推移している。ベにずわいがにかご漁業の努力量（かご数）も、1990年度以降は漸増傾向を示している。同漁業のCPUEは、1986年度から1996年度にかけては減少傾向にあったが、1997年度以降、横ばい傾向を示している。このように、近年ベにずわいがにかご漁業のズワイガニに対する漁獲努力量、漁獲量、CPUEは横ばいか漸増の傾向にあり、漁業、資源ともに比較的安定していると推察される。

資源の水準については、1986年度以降2001年度までのCPUEの変動範囲から中水準と判断した。動向については、過去5年間のCPUEの傾向から横ばいと判断した。



管理方策

本海域におけるズワイガニの漁獲量とCPUEは減少を経て近年横ばい傾向である。減少が始まった時点の資源水準に資源状態を戻すことを目標にした。

資源が中位水準で横ばいの傾向にあるが、資源の回復のためには漁獲圧を低下させる必要がある。過去3年度間の平均漁獲量（1999～2001年度）を元に、漁獲量を抑えるようにABCを算定した。安全率は近年の漁業と資源が安定していると推察されたことから、0.9とした。

管理基準	ABC (トン)	漁獲割合	F 値
------	----------	------	-----

A B C limit	0.8Cave 3-yr	28	-	-
A B C target	0.9ABC limit	25	-	-

資源評価のまとめ

- ベにずわいがにかご漁業による漁獲状況から資源評価を実施
- 近年の漁獲努力量、漁獲量、CPUEは比較的安定して推移

管理方策のまとめ

- 資源水準を漁獲量減少以前に回復させるために漁獲圧力を減少させる
- 漁獲努力量の増加には注意が必要